

編集: 山田浩司

Address: 2208 North Quantico Street, Arlington, VA, 22205, USA

Phone: 1-703-241-0621 E-Mail: mickeyy@pc4.so-net.ne.jp URL: <http://www.sanchai.net/>

ホーム・アローン、1人ぶらぶらやっています。

家族が一足先に帰国してから約3週間が過ぎた。幸いなことに、最大の気懸かりだったソファースーツが売れてしまい、大きめの家具の殆どが行き先が決まった。徐々に搬出が進んでいて、今やリビングルームにはテレビと絨毯1枚しかない。照明すらない。普段の生活は、ゲストルーム兼用の書斎かダイニングルームに限られるようになってきた。帰宅しても、家具があまりないから家の中ががらんとしたなんだかとても寂しい気がする。

隣りのトーマスが週末に覗きに来て、「家の中が変わっちゃったね」と呟いた。美澄も樹生も千智も、帰国前に隣りのニーナ、マリー、トーマスに会って挨拶したかったのだが、ニーナは子供2人を連れて8月末まで母国のデンマークに里帰り中だった。トーマスが「ミキオはいつ帰って来るの?」と聞かれて返事に窮した。「早くても来年夏かな」というのが精一杯だった。遊び相手が減ってトーマスも寂しそうだったが、彼も9月からはタッカホー小学校付属幼稚園に通い始め、週末はサッカーの練習をしている。去年の今ごろは樹生もサッカー少年だったのを思い出す。

ボルチモアに野球観戦に行っても、バージニアのワイナリーにピクニックに出かけても、他に子連れで来られているご家族を見るとちょっと寂しくなる。そういえばここも家族連れで来たよなあと思うと、1人で来ている自分がなんだかすごく情けなくなる。

JICAが私の離任日を10月16日にするように言ってきた。残り1ヵ月、徐々に家財道具の処分を進め、万全を期して帰国したいものだ。それにしても、3年も住めばいろいろと物がたまる。処分するか持って帰るか、判断するのも大変だ。これまでプラプラやってきたけれど、これから帰国準備を加速させなければならないと焦り始めている。

剣道ダイエットのその後

週3回の剣道三昧の生活で、少しは私の体重に変化が生じているかという点、どうも剣道のせいじゃないようだけれど、少し体重が減ってきた。理由その1は家族の帰国直前にクーペを売却し、地下鉄通勤に切り替えたこと。その2は家族がいた時と比べて食事が貧弱になったため、カロリー摂取量が若干減少したこと。剣道そのものよりも、この2つの要因の方が効いている。

パパの体重

84 kg

(9月15日現在)

剣道の方は、自分の稽古量よりも、残るメンバーに対して自分が何を残せるかを考えて、いろいろとアドバイスをするように心がけている。中段に構えている相手に対してまともに面や小手を打ちに行っても当たらない。いかに相手の構えを崩すかをもっと考えるよう、つたない英語で説明している。また、一つ一つの基本技の練習にどのような意味があるか、受け手はどのように技を受けるのが効果的な技の練習に繋がるのか、解説をつけながら練習を指導しているところだ。



わかるかな？ここにいるのが新庄選手だよ！！

日本で8月の風物詩といえば高校野球選手権甲子園大会であるわけだが、アメリカでも過ぎ行く夏の風物詩といえばリトルリーグのワールドシリーズである。今年は、日本からアジア代表として出場した武蔵府中クラブがアメリカ代表のフロリダ州チームに大勝してワールドシリーズを制覇したので、覚えていらっしゃる方もあるかもしれない。リトルリーグのワールドシリーズは、8月後半に開催され、最後の週末が決勝戦となる。場所はペンシルベニア州ウィリアムズポート、ワシントンからは車で4~5時間の場所である。リトルリーグのワールドシリーズが閉幕する頃には夏休みも終わり、9月からは新学期が始まる。

リトルリーグだけではない。プロ野球はメジャーもマイナーも優勝争いはいよいよ大詰め、特にマイナーリーグは9月の勤労感謝の日（Labor Day）でレギュラーシーズンの日程が全て終了する。リーグによってはその後プレーオフが行なわれたりもするが、一方で9月になるとメジャーリーグの優勝争い、プレーオフ進出権争いが大詰めを迎えるため、メジャー登録選手枠が増枠され、マイナーで好成績を挙げた若手の選手はメジャーから呼びがかかることが多い。先月号の「サンチャイ通信」でご紹介したドジャース3Aラスベガス所属の木田優夫投手はこれによってメジャーに再昇格し、メッツ3Aノーフォーク所属の新庄剛志外野手は声がかからず、9月1日のリッチモンド・ブレーブス戦を以って今シーズンを終了した。

かくしてプロ野球は8月後半から9月にかけて悲喜こもごもの様相を見せる。アメリカ生活最後の夏、ボクは8月上旬のアリゾナ家族旅行中から毎週1試合のペースでメジャーリーグ、マイナーリーグの試合を観戦した。次ページがその一覧表である。残念ながら日本人選手は、出場機会がなかったり、活躍しなかったりした。唯一ヤンキースの松井秀樹外野手がタイムリーヒットを打ったのが収穫だったくらいだ。

新庄の場合は、若手に出場機会を譲るといふ本人の意向があったらしい。何しろ3Aと云ったら、その前年のドラフト指名選手がウジャウジャいて、殆どの選手が20代前半だ。そして、大抵の場合は投高打低で、野手の打率は軒並み2割5分程度である。9月1日のリッチモンドでの最終戦は出場しなかったのが確認はできなかったが、7月中旬にマイナー落ちしてから3割2分の打率を残している新庄の実力はマイナーではずば抜けていると思う。メジャーでの好守備を何度もテレビで見ている者にとって

は、草野球並みに守備がボロボロのマイナーリーグに新庄がいること自体が信じられない。奇抜な衣装と言動でスター性たっぷりの新庄が、観客数がせいぜい3000人程度のマイナーのデーゲームのベンチにいること自体、はっきり言って場違いもいいところだ。新庄が昔在籍していた阪神が優勝フィーバーに酔っている真っ最中だから余計にそう感じる。

日付	場所	ホームチーム	ビジターチーム	備考
8月10日(日)	アリゾナ州ツーソン(ツーソン・エレクトリックパーク)	ツーソン・サイドワインダーズ(アリゾナ・ダイヤモンドバックス3A)	ラスベガス・51s(ロサンゼルス・ドジャース3A)	ラスベガスには木田優夫投手所属。ブルペンで話し掛ける。3Aでも内野手の内野ゴロの処理は非常に危なっかしい。
8月16日(日)	メリーランド州ボルチモア(カムデン・ヤード)	ボルチモア・オリオールズ	ニューヨーク・ヤンキース	松井秀樹外野手が勝ち越し打を打つが、9回裏にオリオールズが同点に追いつく。延長14回、NYジャンビー一塁手の本塁打で決着。
8月22日(金)	バージニア州ウッドブリッジ	ポトマック・キャノンズ(シンシナチ・レッズ1A)	リンチバーグ・ヒルキヤッツ(ピッツバーグ・パイレーツ1A)	1回表の攻撃終了後、突然の雷雨に襲われてノーゲームに。1Aのスタジアムは日本の市営球場並みで、選手をかぶりつきで見れるが、何しろエラーが多くて辟易。
8月31日(日)	ペンシルベニア州アルトゥーナ(プレア・カウンティ・ボールパーク)	アルトゥーナ・カーブ(ピッツバーグ・パイレーツ2A)	エリー・シーウルブス(デトロイト・タイガース2A)	この球場、外野スタンドの向こう側に遊園地があって、子連れで行くには最高のロケーション。マイナーリーグの球場としてはとてもリッチな造りだと思う。
9月1日(月)	バージニア州リッチモンド(ザ・ダイヤモンド)	リッチモンド・ブレーブス(アトランタ・ブレーブス3A)	ノーフォーク・タイズ(ニューヨーク・メッツ3A)	新庄出場せず。でも、実はリッチモンド側にも選手登録されている日本人がいたことを発見(竹岡カズヒロ選手)。さすがに毎年優勝争いをするアトランタのマイナーだけあって、とても強いという印象。ノーフォークの内野守備はザル。新庄出てよ!
9月6日(日)	メリーランド州ボルチモア(カムデン・ヤード)	ボルチモア・オリオールズ	シアトル・マリナーズ	なんとイチローはノーヒット。オリオールズがなんと投手戦を制して2-1で勝利。ブルペンの長谷川滋利投手に登板機会なし。マイナーの球場を立て続けに訪問した後だけに、カムデン・ヤードの美しさにうっとり。

家族の居ぬ間に、なんとまあ多くの試合を見たことか。マイナーの試合であっても、地元ファンの声援はなかなかのもので、コミュニティによく根付いているように思う。集客力アップのために様々なファンサービスを行なっているので、暇があったらボールパークに行ってみられてはいかがだろうか。内野ゴロが飛んだら野手の捕球と送球にハラハラドキドキ、メジャーではなかなか見られないスリルだ。

そして、マイナーで頑張るたたき上げの日本人選手を応援しよう。去年まで立教大学のエースだった多田野数人投手は、クリーブランド・インディアンズの1Aキーンストーン所属時によくポトマックやフレデリックに来ていた。シーズン途中で2Aアクロンに昇格し、現在プレーオフで大活躍中だ。彼はいずれメジャーに昇格する。そうすれば、インディアンズがボルチモアでオリオールズと対戦する時は、是非応援に行きたくて欲しい。これからワシントンに滞在、訪問される方のお楽しみとして紹介しておく。また、大家友和投手が所属するモンリオール・エキスポズも、来年はワシントンDCかノーザン・バージニアに移転が決まっている。そうすれば、同じナショナルリーグ所属のドジャースや、田口壮選手のいるセントルイス・カージナルスもこの界隈に遠征してきて試合することにもなる。マイナーも含めれば車で1時間以内の距離に5球団があるワシントン界隈は、野球ファンにはたまらない地域である。

10月1日から独立行政法人国際協力機構として生まれ変わる JICA の新理事長に緒方貞子さんが選ばれた。学生時代に国際組織論の授業でお世話になった教え子の 1 人として、私はとても嬉しく思う一方、75 歳の高齢理事長誕生の裏にある国際協力分野での日本の人材難に改めて寂しさを感じざるを得ない。

今月号サンチャイ通信の冒頭で、JICA 本部では私に 10 月 16 日（木）に飛行機に乗るよう指示してきたことに触れた。辞令交付のために本部出頭するのは翌週の 20 日（月）だから、18 日（土）にこちらを出たって同じだろうと思っていたが、それじゃいけないらしい。私は JICA の「連携協力調査員」であり、「専門家派遣制度」の準用でこちらに派遣されている。私の世銀での任期は 15 日迄だから、任期終了翌日に勤務地を出発して順路直行で成田到着する 17 日迄が私の派遣期間だという。

私も自分が当事者になるまであまり考えたことがなかったが、確かに制度上はそうになっている。でも、ちょっと待って欲しい。世銀との契約は 15 日迄だから、上司が「15 日迄きっちり働け」と厳しく言う人だった場合、引越しの準備ってどうなるんだろうか。私は元々 18 日を出発予定日に決めて、世銀との契約終了後の残りの 2 日間で公共料金の支払いとか、銀行口座の解約とか、後始末をするつもりでいた。世銀の制度はそうになっているからだ。終了後にゆっくりと帰国準備に入り、12 ヶ月以内に引越完了すればよいことになっている。つまり、契約期間はしっかり世銀のために働けという制度なのだ。

一方、JICA の専門家派遣制度はどうなっているかという、途上国では派遣される専門家へのビザは任期の翌日迄しか発給されないケースが多いので、その間に引越手続も完了しなければならない。JICA の専門家は元々が JICA の手弁当で派遣されているわけだから、JICA の制度がそのようになっていれば受入先の途上国政府だってそんなに強く「最後まで働け」とは言えないだろう。それ以前に、JICA の専門家は自分と職務上対等な立場にあるカウンターパートに技術指導をしており、上司と部下という関係にはない。イアンと私の間で上司と部下という関係が成り立っている世銀への職員派遣を、専門家派遣等という制度で運用しようという JICA の考えがそもそもの外れなのだ。ましてや、JICA は私の在勤手当を払っていない。世銀が払っているのだ。世銀から「最後まで働け」と言われたら、世銀の離任制度にのっとなって最後まで働き、引越はその後で考えざるを得ないのだ。

指揮命令系統がはっきりしている JICA の人事と在外派遣職員の場合、在外派遣職員は帰国命令発令後 4 週間以内に帰国することになっている。4 週間もあれば帰国準備は十分余裕持って出きるだろう。ひとたび人事部長から帰国命令の辞令をもらったら、在外事務所内の上司であっても、辞令をもらった職員に仕事を指示することはできないだろう。私は現在世銀の指揮命令系統の下にいるわけで、契約で仕事しているわけだから 10 月 15 日までは仕事を優先させなければならない筈だ。何故に JICA はそこに横槍を入れて、仕事の合間に帰国準備を進めて、契約終了と同時に飛行機に乗れというような無茶な指示を今するのだろうか。

JICA に対する情報提供が少ないのだ、業務報告の提出状況が悪いのだ、私はどうも派遣元の担当部での評判があまり芳しくないらしい。でも、自分の上司は世銀職員なわけだから、先ず上司に対してきっちり申し開きができるような仕事をしなければならないと私は思う。JICA と世銀の間で、山田は定期的に JICA に報告書を提出し、JICA にとって役に立ちそうな情報を適宜発信せねばならないといったような事前合意があったのならともかく、そんなものもなく、どんな情報が欲しいかも事前に言わず、専門家派遣制度を準用して「連携協力調査員」なる肩書きで送り出されて、その割には「連携」なるものに対して本部から慎重な態度ばかりを取られるのでは、「ギヴ」ばかりを期待されてこちらが「テイク」するものが全くない。お互い様ではないかと思う。ご参考までに、JBIC から世銀や IMF に派遣されている職員の方は、派遣元に対して詳細な定期報告など求められず、「とにかく出向者はその組織の人間になれ」と言われて送り出されるらしい。単なる出向扱いで、なおかつ文書による定期報告書ではなく、人事課長が半年に 1 回のペースでワシントンに出張され、出向者へのヒアリングが行なわれるのみだという。JICA も見習ってはどうかと思う。

編集後記

- 次の勤務地は「首都圏」なのだそうです。「首都圏」というところがミソで、「首都圏」は「首都圏」であって「本部」ではないのではないかという憶測がワシントン界限では飛び交っています。そうすると私が知っているあの人の後釜か？いずれにせよ、あと 1 週間もしないうちに行き先がはっきりすることと思います。
- 今回は終盤が派遣元の批判になってしまいました。「制度がそうなっているから」というもっともらしい理由で自分よりもはるかに年下の担当者からメールの淡々としたの文言で 10 月 16 日出発するように指示され、確かに制度上はそうなっていると確認していったんは引き下がりましたが、どう考えてもおかしい。「JICA の制度って意外と融通が利かないんだね」といろいろな人に言われます。「制度」の中には、普段組織の中にいると当たり前のように見えるけれど、外から見ると首を傾げたくなるようなものが沢山あります。そうした指摘を、私達のように外の機関での勤務経験者がもってしてゆかねばならないのではないかと思います。